

## 開催報告

令和 6 年 10 月 11 日 (金) 13:30-15:00、研究大学コンソーシアム「学術情報流通の在り方に関する連絡会」の主催により学術情報流通に関する連続セミナー (第 5 回)「オープンアクセスと日本の学会誌の展開」を開催しました

特定非営利活動法人 ScholAgora の永井裕子代表を講師に招き、戦後から現在に至るまでの日本の学会誌の変遷と課題を詳しく解説していただきました。さらに、永井氏が調査した日本の学会誌のオープンアクセスの最新状況も報告していただきました。

東京科学大学戦略本部の茂出木理子特命専門員によるファシリテーションで行われた質疑応答では、会場・オンラインから、新しいオープンアクセスモデル「Subscribe To Open」の持続可能性、日本の学会誌の海外プラットフォームへの移行状況、オープンアクセスを巡る動きに研究者の意識をより反映させる必要性など、多種多様な質問や意見が寄せられました。

講演終了後に会場で開催されたアフターセッションには、対面参加者の大部分が参加し、講師を囲んで活発な意見交換が行われました。

■参加者数 230 名 (対面 17 名、オンライン 213 名)

■アンケート結果 回答数：127

○職種

大学職員 (図書系)：88 URA：17 大学職員 (研究推進系)：7 大学教員・研究職：4  
出版関係者：0 その他：11

○機関

国立大学：85 私立大学：20 公立大学：7 民間企業：4 その他：11

○セミナーは参考になりましたか

とてもよかった：84 よかった：34 あまりよくなかった：6 よくなかった：3

○ご意見・ご感想 ※公開の同意をいただいたものです。

【大学教員・研究職】

- 即時 OA の流れもあり、この問題について、最近勉強をし始めたところです。本日問題とされた、研究者と図書館員の意識の違い、というのが、まだよくわかっていないのです。おそらく多くの研究者は察せられていないです。なぜ図書館の問題としてはいけないのか、がわからない研究者に説明する気持ちで、できれば、図書館員の方が、一般の研究者の知識レベルまで降りてきて、わかりやすく追加説明いただければ、と思いまし

た。本日の講演に関して、APC のとても気持ち悪い不平等さは共感しており、S2O への気持ちはすごくわかりました。

- 現在、所属学会で論文誌の OA 化が議題となっており、参加させていただきました。素人だったので内容についていくのが精一杯だったのですが、今後学会で議論すべき要点がどのような点にあるのか、大変勉強・参考になりました。

#### 【URA】

- めっちゃおもしろかったです。URA は研究者の寄りそうことを自負しているのですが、OA に関しては寄り添いどころが違うということがはっきり分かりました。(APC の補助制度や Top ジャーナル投稿奨励など)
- 最近になって、大学の中でこの問題を担当することになった者です。それぞれの立場でしっかりと考えるべき、ということが身に沁みました。ほとんど知らなかった過去からの経緯なども含め、貴重なご講演を誠にありがとうございました！
- 今までお話を伺ったことのない立場の方のお話を伺って大変有意義でした。
- オープンアクセス、オープンサイエンスは喫緊の課題である。当方の大学でも、試行錯誤しており、大変参考になる最新のお話を伺えた。改めて感謝申し上げます。
- 今まで考えてみたこととのないトピックに出会える機会となっており、大変楽しめました。このような知（インテリジェンス）に多くの人々が日夜奮闘している、ことはなんと豊かな教育環境を提示しているのでしょうか。これらの深く知的好奇心を湧き立てる事項に母国で接することができる環境を日本はもっと誇るべきではないのでしょうか。その点において、英語論文のみを称賛する風潮を日本政府はもっと改めていくべきだと思います。日本語論文の地位向上に政府の働きも期待したいです。

#### 【大学職員（研究推進系）】

- 様々なステークホルダーが集い、何でも言える「場」をつくるのが、これからの研究力強化において必須であると改めて考えさせられました。貴重な時間を頂き有難うございました。
- 講演者の方の様々な経験値からくる率直なご意見に加え、初公開のデータ値が様々示されたことで、心に染み入る部分と、自分事として考える部分ができ、そういう点でも大変よいセミナーでした。また、講演と質疑応答の時間配分や流れのバランスもよく、深く考えることができました。講演後のアフターセッションも楽しかったです。

#### 【大学職員（図書系）】

- 今年新卒として入ったため、OA の流れを学びたいと思いセミナーに参加しました。私の事前知識が足りずスライドの内容でわからないところ、先生の発する言葉の意味が分からない場面も多々ありました。一方で、とくに質疑応答の際、今の日本の OA のな

にがやういのか、何をやる必要があるのかについて、自学習として様々な文書等を読むよりも自分事としてとらえることができました。加えて、今日のお話の中で分からなかった部分、もっと理解したい部分をしっかりと勉強しようという目標もできました。貴重なお話をありがとうございました。今は何もわからない、何も貢献できない新米ですが、しっかりと勉強を重ね、関係者と対話でき、何か図書館業界の役に立てるような人材になりたいと強く感じました。

- 私自身、図書館で雑誌を担当していてまだ 1 年目で学術誌に関する知識がほとんどなかったのが、大変勉強になりました。特に、オープンアクセスに対する考え方は非常に考えさせられるものがありました。
- 大学図書館職員の立場からすると、組織で働く以上は従わざるを得ない決まり事が様々あります。人事制度、働き方、業務所掌、予算、意思決定の仕組み、などなどです。よく、「これからの図書館を担っていく若手に頑張ってほしい」などと期待をかけられますが、若手の立場では、そういった仕組みを変えることは難しいです。意見を言っても否定されることはないですが、結局それで何かが変わるわけでもありません。そして組織からはみ出すことは、自覚的になればなるほど勇気の要ることです。今日のお話の中でも「若手の研究者ほどコンサバ」という発言があり、文脈は違うと思いますが、少し「わかる」ような気がします。
- 講師のオープンサイエンスを本当に望んでいるか、40 代の研究者の意見を聴くべきというコメントが、印象に残りました。
- これまで日本の学術誌について、出版する側面から知る機会がありませんでしたので、とても勉強になりました。図書館も学術誌出版を支える立場であると知り、非常にハッとさせられました。
- 英語を母語としない我が国の学術研究について、商業出版誌と対等に対抗していくのが困難な状況が良く理解できた。その中での様々な取り組みについて敬意を表す。図書館員としては地道にリポジトリによる OA に関わっていくしかないのか、なにか出来ることがないのか、悩ましい限りである。
- S2O モデルについて興味が湧きました。今後も動向を追っていこうと思います。様々な学会側の考え方など永井様からだからこそ伺えたお話が多く、またオンラインからでも熱い想いも伝わり、大変充実したセミナーでした。ありがとうございました。
- 不勉強のため、Subscribe to Open について、ほとんど初めて知った。大学図書館にとって、電子ジャーナルの価格高騰は大変頭の痛い問題であり、対応が急がれるが、S2O のような、もうけ主義に傾きすぎない別の選択肢の開拓も同時に進めていかなければならないと感じた。
- S2O のメリットを紹介いただいたことで、APC による OA モデルのデメリットが見え、

とても勉強になりました。S2O にもフリーライダー等の懸念点があることが紹介されましたが、市場が小さく、科研費が取りづらい分野にとって S2O のほうが望ましいことがよく分かりました。

また、今後、現在の学術誌と研究評価の関係性が変化せず、APC モデル中心の OA 化が進んでしまった場合、科研費がとりやすい分野とそうでない分野・研究者間の格差が生み出す問題が学術全体に与える影響が大きくなってしまわないかという懸念が大きくなりました。

図書館職員として OA だけについて考えるのでなく、そこに付随する問題も含めてより多角的な視点で進めていかなければならないことがよく分かりました。ありがとうございました。

- 現在大学図書館で OA 加速化に伴う職員向け勉強会の企画チームに入っている者です。全く OA について知識がないに等しい中、S2O のモデルを知り図書館主体のモデルとはなるものの研究者にとってある意味負担の少ない実施状況があるのだなあと感じました。
- 国内の即時 OA 方針を受けて短期的にどうするかだけでなく、長期的に検討が必要な事項（学術情報流通に関しどこにコストをかけていくか、またコストは適正か）という視点を得ることができ、勉強になりました。
- 大変興味深いお話をありがとうございました。最初の方はちゃんと聞けなかったもので、後で録画を拝見いたします。

APC について、ネイチャー系が高いという話は聞いたことがありましたが、150 万とはびっくりしました！それって「お金持ち」しか OA できないということですよ。。。研究の発展にブレーキかかっているのではないかと個人的には思いますが、研究者の皆さまとしてはどうなのでしょう。分野によりご意見異なるのかもしれませんが？

あと、「大手出版社で出版すると楽」という本音はわかるとして、「xml 化 1 ページあたりの費用」と APC との落差にも驚きました。APC は何に使われているのか、APC が高額な出版社の利益はいったいどこへ流れているのか、どなたか調べていただけたら嬉しいかなと思います。

- 先日所属大学の教員から、論文を出したが APC が高かった、学内外に関わらず予算の少ない研究室は払えないだろう、いつまでこのようなことを続けるのかとのコメントをもらいました。誰が出版経費を払うのか？は大きな問題ですので、議論の先延ばしは出来ないと感じています。
- 大変勉強になりました。学術出版のコストを誰が、どのような形で負担するかというのは、非常に難しい問題ですね。欧州の DIAMAS が言うように、非営利の機関出版主体（Institutional Publisher）が非営利・営利のサービス提供者（Service Provider）に業務を委託する形で持続的に活動できるのであれば、理想的なのですが。

- slido にも書きましたが国が、研究者に日本のジャーナルプラットフォーム J-STAGE での OA 論文公開を奨励すれば、研究者は雪崩を打って J-Stage に OA 投稿すると思います。国が、J-Stage で評価される学術誌の基準を定めれば、学会はそれに沿うように自分たちの学会誌のレベルを整えるようになるであろうと思います。海外の出版社に購読料、APC を流すのは、国益にかないません。国が、自国のジャーナルプラットフォーム育成するように要望する必要があると思います。

論文が日本語か英語かなんて問題ではないと思います。タイトルとアブストラクトが日英で書かれていれば、検索には十分です。本文は、英語変換して読めばいいのではないですか。外国誌に英語で投稿しなければ、という思い込みから解放されるようには、国の奨励が一番効果あると思います。

- 最近、大きな学会の維持がむつかしく、小さなグループに分散しがち、との話をどこかでよみました。SNS 時代、アカデミアの世界も例外ではないんだなあと思いました。投稿して、時間をかけて査読して、という学術雑誌のあり方も変化していくと思う一方、変わらない部分もあるんだろうなあと思います。答えのでない問題ですね。
- 学会が商業出版社にジャーナルを売り渡す(せざるを得ない)点が、今日の不健全な学術情報流通を生み出している一要素であると思うので、実際に学会に携わっている方からのお話は大変参考になりました。
- 日本の学会誌について少し理解できました。電子ジャーナル問題や OA 化推進について検討するうえでの参考になりました。ありがとうございました。
- OA 化の流れについて、自由な意見が聞けて非常に参考になりました。
- 永井さんが少しだけ言及されていた、戦後の学術情報流通の歴史について興味がわきました。
- 貴重なフォーラム開催を本当にありがとうございました。リアルな学会の事情を拝聴でき、大変参考になりました。
- いま、自分たちに何ができるか、何をすべきか、今一度真摯に考えてみたいと思います。ありがとうございました。
- 永井さんの熱いご講演を聞き、SCPJ データベースの著作権ポリシー情報更新のため、学会にアンケートを取りまくっていた 20 年前を思い出しました。
- 今回初めて参加させていただきました。有意義な時間をありがとうございました。
- 初めて参加しましたが、永井先生の熱意あるお話にひきこまれました。有意義な時間を設けていただきありがとうございました。
- 大変ためになるお話でした。ありがとうございました。
- いつも大変勉強になるセミナーを開催していただきありがとうございます。次回を楽しみにしています。

#### 【その他】書店、事務職

- 本日は貴重な機会をいただき御礼申し上げます。数あるフォーラムやセミナーの中でも学びの機会だけではなく気づきの機会も提供いただける場として大変参考になっております。今後ともよろしく願いいたします。
- 一般事務のため馴染みのない WORD もあったが、参考になった。

○今後、セミナーで取り上げてほしいテーマ ※公開の同意をいただいたものです。

#### 【研究者の意識】

- 研究者のオープンサイエンスへの意識について
- 研究者の方をお呼びし、OA に関する考えをお聞きできる機会があるとありがたいです。
- 30代～40代の研究者から、OA が自身の研究に与える（与えた、与えるであろう）影響について率直なお考えを聞きたい。
- OA が難しい分野の研究者（人文系など）から見た現在の OA の流れへの考えについて

#### 【オープンアクセス関連】

- オープンアクセスとは何か
- 永井氏がテーマの一つとしていた「望ましい OA とは何か？また OA は望まれているのか？」などについて、取り上げて欲しいです。私は、いったんインターネットに公開した情報が生涯にわたり公開した者が責を負う、パブリックドメインに情報を公開することのリスク、という点において OA 推進に懐疑的立場です。
- cOAlition S の "Towards Responsible Publishing" やゲイツ財団の新 OA 方針など、欧米では反 APC の動きが出始めているように感じます。日本ではようやく研究機関による APC 補助が普及し始めたところなのに。このあたりの海外事情を解説していただくとありがたいです。
- 公的資金による即時 OA に関する国の施策あるいは NII の動向について

#### 【その他】

- 研究成果の評価のあり方と学術雑誌の役割の将来像
- 「査読」について
- 大学におけるデータベースの全学展開について、事例を知りたい。（プロジェクト運営の事例など）
- 若手研究者への研究支援について
- cc ライセンスの種別に関して、詳しく知りたいです。特に、論文を対象とした場合の具体例なども、示していただけたら、大変ありがたいです。

写真

